



令和7年1月30日

# 福岡県内経済情勢報告

令和7年1月

財務省福岡財務支局

〔問い合わせ先〕

財務省 福岡財務支局 経済調査課

電話 092-411-9038

# 福岡県内経済情勢報告

## 1. 総論

【総括判断】「県内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（6年10月判断）	今回（7年1月判断）	前回比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	→

（注）7年1月判断は、前回6年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（6年10月判断）	今回（7年1月判断）	前回比較
----	-------------	------------	------

個人消費	物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している	物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している	→
生産活動	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	緩やかに持ち直しつつある	↗
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

設備投資	6年度は増加見込み	6年度は増加見込み	→
企業収益	6年度は減益見込み	6年度は増益見込み	↗
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	↗
輸出	前年を上回っている	前年を下回っている	↘

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している」

百貨店販売は、伸びの鈍化がみられるものの、インバウンド向けを中心にラグジュアリーや化粧品が引き続き好調なことから前年を上回っている。スーパー販売は、買い控えがみられるものの、価格転嫁の浸透もあり前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、都心部におけるインバウンド需要等により前年を上回っている。乗用車販売は、普通車については前年を上回っている一方で、小型車や軽乗用車については一部生産停止などの影響により前年を下回っており、全体的には横ばいの状況となっている。ドラッグストア販売は、日用品等が好調のほか、新規出店の効果もあり前年を上回っている。家電大型専門店販売、ホームセンター販売は、秋にかけて冬物家電等の販売が低調だったことから前年を下回っている。旅行取扱高は、物価高騰や円安による需要減により、前年を下回っている。

### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械の自動車は、昨年度の高水準の生産の反動等があるものの、足下持ち直しつつある。はん用・生産用機械は、緩やかな増加基調となっている。電子部品・デバイスは、弱い動きになっているものの、在庫調整に進展がみられる。鉄鋼は、建築資材の需要等が伸び悩んでおり、横ばい圏内で推移している。

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、おおむね横ばいとなっている。新規求人数は前年を上回っている。

### ■ 設備投資 「6年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期

6年度は、製造業は前年比59.4%の増加見込み、非製造業は同14.4%の増加見込みとなっており、全産業では同24.0%の増加見込みとなっている。

### ■ 企業収益 「6年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期

6年度は、製造業は前年比20.3%の減益見込み、非製造業は同8.9%の増益見込みとなっており、全産業では同0.2%の増益見込みとなっている。

### ■ 住宅建設 「前年を上回っている」

新設住宅着工戸数で見ると、持家、貸家、分譲住宅及び給与住宅が増加していることから前年を上回っている。

### ■ 輸出 「前年を下回っている」

輸出(円ベース)は、前年を下回っている。なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。

#### (その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(6年10-12月期)の景況判断BSIで見ると、6年10-12月期は、「上昇」超となっている。先行きについては、7年1-3月期は「上昇」超の見通しとなっている。